令和８年度　下水道管路管理主任技士

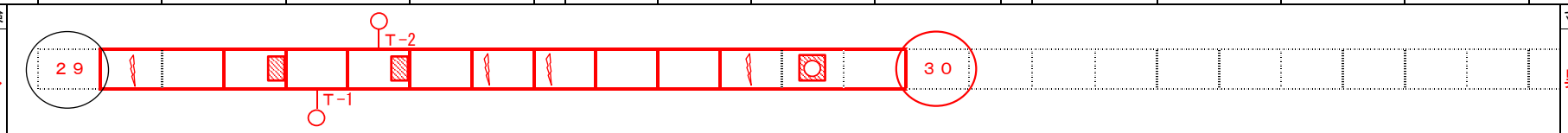
解 答 例

実地試験（Ⅰ.成果報告書作成に関する実務）【解答用紙】

受験番号	

［問１］　本管用調査記録表

上流マンホール					路線番号	管種	管径	マンホール間延長	下流マンホール				
マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別					マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別
２９	１号マンホール	２．２５ m	１．９７ m	鋳鉄	２６－１	ヒューム管	φ ２５０ mm	１９．３９ m	３０	１号マンホール	２．１９ m	１．２８ m	鋳鉄



| | | | | |

受験番号	

［問２］　スパン全体の評価と緊急度の判定

正　答

※ 試験問題の本管用調査記録表は、問１の解答とは異なります

（１）スパン全体で評価した場合のランク付け

診断項目	評価のランク
管の腐食	B
上下方向のたるみ	異状なし

※ 上記の診断項目についての評価ランク（「A」「B」「C」「異状なし」）を記入すること。

（２）管１本ごとに評価した場合のランク付け

管１本ごとの不良ランク	不良本数（本）	本管本数（本）	不良発生率※1（%）	評価のランク※2
a	3	14	21	A
b	2		14	
c	1		7	

※１ 不良ランク（ａ、ｂ、ｃ）それぞれの不良発生率算定結果は、率の小数点以下を四捨五入して単位止まりとする。

※２ 不良発生率によるスパン全体での評価ランク（「A」「B」「C」「異状なし」）を記入すること。

（３）緊急度の判定

・上記の（１）スパン全体での評価結果及び（２）管１本ごとの評価結果により、

本設問管きょの緊急度判定は、　「緊急度：　Ⅱ　」である。

［問２］本管用調査記録表（評価・判定用）　【参考：管１本ごとの評価・不良本数算出根拠】

上流マンホール					路線番号	管種	管径	マンホール間延長	下流マンホール				
マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別					マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別
２６１	組立１号	１．７３ ｍ	１．４５ ｍ	鋳鉄	Ｒ０８	ヒューム管	φ ２５０ ㎜	２８．９０ ｍ	２６２	組立１号	１．８８ ｍ	１．６０ ｍ	鋳鉄
ﾏﾝﾎｰﾙ内点検													ﾏﾝﾎｰﾙ内点検
異状なし				※ 異状及び取付け管の略図は省略している									異状なし

継手部	継手数	管口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	管口									
	写真番号																								
	内容		樹木根侵入 c	管の継手ズレ c				管の継手ズレ c 浸入水 b		管の継手ズレ c	樹木根侵入 c		管の継手ズレ c												
	距離（m）	0.45	2.46	4.44				12.43		16.44	18.45		22.46			28.45									
本管部	本管数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14										
	写真番号																								
	内容			管の腐食 B 起点		円周方向クラック 浸入水 b a		管の破損 c		円周方向クラック 浸入水 a b		円周方向クラック 浸入水 b	円周方向クラック 浸入水 a b		管の腐食 B 終点										
	距離（m）			5.30		9.18		13.65		17.72		21.55	23.67		28.45										
取付け管部	取付番号			T-1		T-2						T-3		T-4											
	写真番号																								
	内容			左取付け管		右取付け管 油脂の付着 c						左取付け管		左取付け管 油脂の付着 c											
	距離（m）			5.60		9.21						21.63		25.29											

※管不良本数等の表記は省略している

不良本数
- a：3本
- b：2本
- c：1本

異状内容 / 異状箇所	管の腐食 A	B	C	上下方向のたるみ A	B	C	管の破損 a	b	c	管のクラック a	b	c	管の継手ズレ a	b	c	浸入水 a	b	c	取付け管の突出し a	b	c	油脂の付着 a	b	c	樹木根侵入 a	b	c	モルタル付着 a	b	c	計 ※1 A	B	C	a	b	c
継手部															4		1		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	(2)	( )	( )	( )					1	4
本管部		1							1	2	2					1	2		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )		1			3	4	1
取付け管部																			( )	( )	( )	( )	( )	(2)	( )	( )	( )	( )	( )	( )							
計		1							1	2	2				4	1	3		( )	( )	( )	( )	( )	(2)	( )	( )	(2)	( )	( )	( )		1			3	5	5

備　考　（※省略する）

※1　「取付け管の突出し」「油脂の付着」「樹木根侵入」「モルタル付着」については、清掃等で除去できる項目とすることから異状箇所数のみ（）内に表記し、
″集計″及び″管１本ごとの評価″の対象外とする。

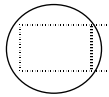
令和８年度　下水道管路管理主任技士

実地試験（Ⅰ.成果報告書作成に関する実務）【解答用紙】参考様式

受験番号	

［問１］　本管用調査記録表

流マンホール					路線番号	管種	管径	マンホール間延長	流マンホール				
マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別					マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別
		m	m				φ　mm	m			m	m	

マンホール内点検		マンホール内点検
		

継手部	継手数	管口		管本数
	写真番号			[　本　]
	内容			管不良本数
				[　本　]
				取付け管数
				[　箇所　]
	距離（m）			DVD番号
本管部	本管数			[　巻　]
	写真番号			
	内容			布設年度
				[　年　]
				占用位置
	距離（m）			１．国　道
取付け管部	取付番号			２．県　道
	写真番号			３．市町村道
	内容			４．私　道
				５．その他
				Ａ．車　道
				Ｂ．歩　道
	距離（m）			［該当番号　］
考察				

異状内容 ※1 / 異状箇所	管の腐食			上下方向のたるみ			管の破損			管のクラック			管の継手ズレ			浸入水			取付け管の突出し			油脂の付着			樹木根侵入			モルタル付着			計 ※1						備考
	A	B	C	A	B	C	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	A	B	C	a	b	c	
継手部																			( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )							
本管部																			( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )							
取付け管部																			( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )							
計																			( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )							

※1　「取付け管の突出し」「油脂の付着」「樹木根侵入」「モルタル付着」については、清掃等で除去できる項目とすることから異状箇所数のみ（）内に表記し、集計の対象外とする。

受験番号	

［問２］　スパン全体の評価と緊急度の判定

参考様式

※ 試験問題の本管用調査記録表は、問１の解答とは異なります

（１）スパン全体で評価した場合のランク付け

診断項目	評価のランク
管の腐食	
上下方向のたるみ	

※ 上記の診断項目についての評価ランク（「Ａ」「Ｂ」「Ｃ」「異状なし」）を記入すること。

（２）管１本ごとに評価した場合のランク付け

管１本ごとの不良ランク	不良本数（本）	本管本数（本）	不良発生率※1（%）	評価のランク※2
a				
b				
c				

※１ 不良ランク（ａ、ｂ、ｃ）それぞれの不良発生率算定結果は、率の小数点以下を四捨五入して単位止まりとする。

※２ 不良発生率によるスパン全体での評価ランク（「Ａ」「Ｂ」「Ｃ」「異状なし」）を記入すること。

（３）緊急度の判定

・上記の（１）スパン全体での評価結果及び（２）管１本ごとの評価結果により、

本設問管きょの緊急度判定は、　「緊急度：＿＿＿＿＿」である。